



ほうさ 第25号

1986年1月

名古屋市蓬左文庫
Nagoyashi Hōsabunko

屢示屋 よ り

説話文学展

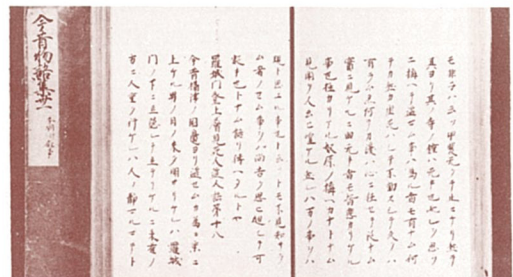
1.11(土)~2.16(日)

神話・伝説・昔話・世間話・逸話・思出話・歴史話・有職談・仏教話・詩歌話・芸能話・童話等々、人々の口々に、または文字によって伝承された話が説話であり、その内容は、多様で広範囲に及んでいる。文学史上において説話文学とは、「今昔物語集」や「宇治拾遺物語」に代表される古今東西の説話を集載した説話集をさすのが一般的である。しかし、説話を収録したもの、取材したものを考えると文学のほとんどの分野に及ぶといっても過言ではなく、とくに、平安時代の末から鎌倉・室町時代にかけて説話文学はその文化全般に素材を提供する役割を果たしていたようである。

文字のない時代に口承で伝えられてきた神話・伝説は、8世紀の前半から「古事記」「日本書紀」「風土記」などに収録されているが、我が国最初の説話集「日本霊異記」（「日本国現報善惡霊異記」）が成立したのは9世紀のはじめ頃である。続いて10世紀頃までに「三宝絵詞」などいくつかの説話集が作られるが、これらはどれも仏教を題材とした仏教説話集で、中国の仏典、仏書、説話の翻訳、翻案を取材源として、因果応報や、仏教の霊験、利益を説く話が多かった。ついで、11世紀以降の末法思想の流行とともに、極楽往生を求める人々の志向を反映して、往生や霊験がいかに実現されたかを物語る往生伝の集成が盛んに行われることとなる。

こうして、説話集の編纂は、仏教説話集から始められたが、10世紀の末から11世紀にかけて、題材を仏教に限らず、歴史上の人物の逸話、妖怪変化の話、恋愛談、庶民生活に起る事件などを含んで、文学的な内容と表現を供えた説話集が登場してくる。歌物語集であるとともに、古伝説を収録した説話集とも評価される「大和物語」、「今昔物語集」「宇治拾遺物語」の取材源と目され、現在では散佚して、その形を留めない「宇治大納言物語」、そして、平安時代の世相と人間を鋭く活写し近代においては、芥川龍之介の小説「羅生門」等に題材を提供した、「今昔物語集」などである。

「今昔物語集」は、平安時代の末、1130~1150年頃の成立と推定されるが、この作品は、成立してから約300年間、ほとんど人目にふれることなく奈良のどこかで眠っていたという不思議な経歴を持っている。このため、鎌倉時代の説話集には、直接の影響を与えていないとするのが定説である。どの話も、「今は昔……」ではじまっており、収録された話の総数1,059話(内19話は題名のみで本文を欠く)、天竺(インド)震旦(中国)本朝(日本)の三部構成で、各部ともに、仏教説話、王侯貴族、庶民、霊鬼、動物等を主人公とする一般説話の順に配列されている。全



「今昔物語集」 31巻28冊(巻8, 11, 21欠)

「尾陽文庫」印記 30×22.4cm

尾張藩二代藩主光友(1625~1700)の蔵書。

28冊本としては古写本の一つ。

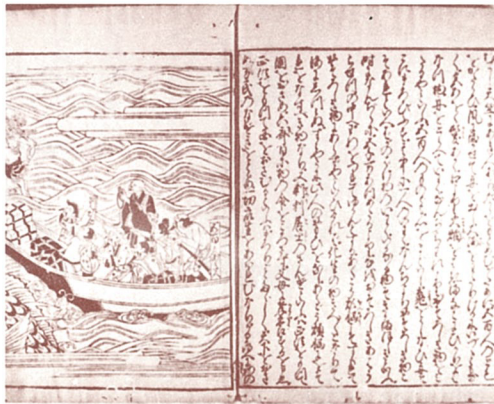
体の構成、構想は仏教的世界観に基づいており、65%強を仏教説話が占めるなど、仏教説話集としての面も無視することはできない。

鎌倉時代に入ると、説話集の生産はピークを迎え、話の面白さ、楽しさを中心に編纂された「古事談」「宇治拾遺物語」「今物語」「古今著聞集」などが登場してくる。とくに、「宇治拾遺物語」は、その面白さと、話の配列の妙によって傑出した存在となっており、貴族社会の出来事から民話に至るまでを題材に、様々な人間模様を淡々と語って文学的に高い評価を得ている。また、これらの説話集の取材源となったのは、平安時代の末から鎌倉時代の初期に編纂された「江談抄」等の貴族の談話筆記で、これも宮廷の故事・典礼をはじめ貴族社会にかかわる伝承・逸話・世間の風聞などを収めた説話集であった。一方、「古事談」等と共通の話題に取材しながら、面白さよりも話を材料に教訓を引き出そうとする「続古事談」「唐鏡」「十訓抄」なども作られ、これらには小話の巧みな挿入によって社会批判を語る「つれづれ草」との共通性を見る事も出来る。

仏教説話においては、出家、遁世の説話が多くなる一方、話そのものよりも批評、教訓に重点が置かれるようになり、遁世志向の強い随筆文学の傾向を示す「発心集」「閑居友」「撰集抄」、説法の材料となったであろう「宝物集」「沙石集」が作られている。この内「沙石集」は、常陸の出身で後に尾張の長母寺(名古屋市守山区)の住職となった無住を編者としてすることから、都中心の他の説話集に対して、関東や東海の話をも豊富に収録し、さらに当時の話に重点をおいて集めるなど、特異な存在の説話集の一つとなっている。

ところで、平安時代の末から鎌倉、室町時代を通じて、多くの作品が生れ、琵琶法師の語りによって全国に普及した「保元、平治物語」「平家物語」「太平記」などに代表される軍記物語と説話文学とは極めて近い関係にある。「今昔物語集」の中に、合戦を題材にした一群の説話が収録されているのをはじめとして、軍記物語中には、説話集と共通した話を含め、多くの説話が収録されており、さらに年代的な配列と筋の発展という点を除けば、軍記物語を、伝承された話を素材として年代順に組み立てた説話集と見ることもできるであろう。

室町時代になると、説話集の編纂は急速に減少し、かわって、説話は当時流行したお伽草子、能、狂言、語り物の題材として登場することとなる。この中には、あざやかな色調の挿絵を持つ奈良絵本や、挿画に丹と緑を主に三、四色の彩色をした丹緑本の題材となるものもあった。江戸時代に入ると、文学史的には未確立ながら井原西鶴の作品をはじめとして、仮名草子、浮世草子、読本、喃本などの中に、説話集と呼べるものや、説話に取材したものも含まれており、絵入りの中世の説話集の刊行や、中世以来の絵巻き物による説話の絵解きなど、近世においても、説話が文学、文化に与えた影響は大きかったはずである。



宝物集(江戸中期刊)



参考文献

- | | | |
|--------|--------------|------|
| 小山弘志編 | 『日本文学新史・中世』 | 1985 |
| 稲田利徳等編 | 『中世文学の世界』 | 1984 |
| 池上洵一 | 『『今昔物語集』の世界』 | 1983 |
| 小峯和明等編 | 『説話文学Ⅱ中世編』 | 1982 |

宇治拾遺物語 5冊 「御本」印記 30.2×21.6cm

尾張藩初代藩主義直(1600～1650)の蔵書。
第4冊目は、別の説話集「小世継」で、「小世継」が混入しているものでは他に九州大学本がある。

「説話文学展」出品目録

〈説話〉

1. 今昔物語集 江戸初期写 31巻28冊
2. 宇治拾遺物語 江戸初期写 5冊
3. 古今著聞集 橘 成季編 元禄3年刊 20巻5冊
4. 今物語 藤原信実編 江戸末期刊 1冊
5. 吉野拾遺 江戸中期写 2冊
6. 続古事談 元禄14年刊 4巻2冊
7. 唐鏡(巻四) 藤原茂範 鎌倉時代写 1冊
8. 十訓抄(巻一・二・四・五) 江戸中期刊 1冊
9. 宝物集 平康頼編 江戸中期刊 1冊
10. 同 同 元禄6年刊 7冊
11. 三宝絵詞 観智院本 源為憲 (昭和14年複製) 3巻3冊
12. 閑居友 前田家本 藤原慶政編 (昭和15年複製) 2巻2冊
13. 西行上人絵詞 江戸初期写 1軸
14. 西行撰集抄 多賀流光斎画 刊 3巻5冊
15. 沙石集 釈無住 慶長10年刊 10巻8冊
16. 同 同 正保4年刊 10巻10冊
17. 同 同 貞享3年版 (明治44年複製) 10巻5冊
18. 伊曾保物語 万治2年版 (大正14年複製) 3巻3冊
19. 駿牛絵詞 享保19年写 1冊
20. 新古事談 井沢長秀編 江戸中期刊 5巻1冊
21. 新続古事談 同 元文2年刊 5巻1冊
22. 新著聞集 神谷養勇斎編 寛延2年刊 18巻12冊
23. 西鶴諸国はなし 井原西鶴 貞享2年版 (昭和15・16年複製) 5巻5冊
24. 元亨釈書 釈師鍊 慶長10年刊 30巻10冊
25. 法然上人行状絵図 知恩院本・往生院本 釈舜昌 (大正13年複製) 6佚
26. 鎮西禪師行状絵図 江戸中期刊 18巻18冊
27. 鷺林拾葉抄〔法華抄〕 室町時代写 10巻10冊
28. 聖一国師仮名法語 釈弁円 室町時代写 1冊
29. 蒙求抄 室町時代写 3冊
30. 新刻出像増補搜神記 晋・干宝撰 明代刊 6巻6冊
31. 大倭物語 明応5年写 (昭和52年複製) 2冊

32. 大和物語 江戸初期写 1冊
33. 四季物語 鴨長明 江戸中期写 1冊

〈軍記物語〉

34. 将門略記・陸奥話記 江戸初期写 1冊
35. 将門記 真福寺本 同 写(元文元年松平君山奥書) 1冊
36. 将門記 同 (大正14年複製) 1冊
37. 保元物語 慶長年間写 2巻2冊
38. 平治物語 同 3巻3冊
39. 平家物語 天和2年刊 12巻12冊
40. 同 真字熱田本(昭和16年複製) 12巻12冊
41. 源平盛衰記 慶長16年写 48巻48冊
42. 太平記 貞享5年刊 40巻21冊
43. 義経記 寛文13年刊 8巻8冊
44. 曾我物語 元禄14年刊 12巻4冊

〈奈良絵本〉

45. つれづれ草 吉田兼好 江戸初期写 6冊
46. しぐれ 同 5冊
47. ふしみときは 同 2冊
48. 静物語 同 1冊
49. くさ物語 同 2冊
50. 大黒舞 同 2冊
51. 鶴のさうし 写 1冊
52. こをとこのさうし (昭和5年複製) 1冊

〈丹緑本〉

53. むしのうた合〔木下長嘯子〕 (大正14年複製) 1冊
54. うをのうた合〔同〕 (大正15年複製) 1冊
55. とりのうた合 (昭和2年複製) 1冊
56. けだものの哥合 (昭和3年複製) 1冊

〈お伽草子・その他〉

57. 秋の夜長物語 寛永19年刊 1冊
58. 玉藻前物語 宝永7年刊 3巻3冊
59. 十二段さうし (昭和7・8年複製) 3巻3冊
60. 新板物ぐさ太郎 寛文5年版 (昭和9年複製) 2巻2冊
61. 獣太平記 寛文9年版 (大正11・12年複製) 2巻2冊
62. 謡抄 慶長年間刊 10冊
63. 看聞御記 図書寮本 後崇光院(昭和11年複製) 43軸

蓬左文庫の蔵書印

その18. 深 田 香 実

細 野 要 齋

織 茂 三 郎

今回は、尾張藩有数の儒学者、深田正韶（香実と号する）とその第一の門人細野忠陳（号は要齋）と二人をえらんだ。前回の神村正鄰父子（養父子ではあるが）に対するに師弟の関係にある人物というわけである。

号の香実とは、梅の実のことで、深田家には昔から由緒のふかい梅の木があったとの伝え、要齋の方は、ものごとすべてカナメが大切という意味で、師の香実のアドバイスによるといわれる。ここでは蔵書印の話がテーマであるから、生没の年などは必要に応じて記

せばよろしいはずであるが、今回は紙数に余裕があるので、伝記の方も多少くわしく述べようと思う。香実は安永元年(1772)に生まれ、嘉永3年(1850)、78歳をもって病死、性高院に葬。要齋、名は忠陳は文化8年(1811)に生まれ、明治11年(1878)に病死、大光院に葬られた。これらは文末に書くのが普通であるが、これも、都合により最初に記しておく。

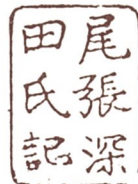
さて、深田家は藩祖義直以来、学術によって仕えたが、初代の円空(正室)は、天文学や諸種の技術に通じ、準天儀(天体観測機)を製って二代將軍秀忠(当時隠居)に献上、また、自鳴鐘(一種の置時計)を工夫して津田助左衛門(時計師)に作らせ、これは義直に献じた。京都西陣に縮緬などの織り方を教えたのも円空といわれる。以後、代々、すぐれた学者を出したが、香実にいたって学ますます広く、儒学のほかに国学にもくわしく、豊坂翁(とよさかのおきな)とも称した。十世斉朝の侍読(師)となり、「稽徳編」30巻を著わした。徳川諸家の文武両道にわたる徳を顕彰したもので、写本として多く伝わっている。

その後、書物奉行に就任、天保年間における学界の大物の一人として推重された。この間、命を受けて「尾張志」60巻を監修し、みずから筆をとって外題の全部と序文を書いた。ちなみにこの原本は蓬左文庫に所蔵されている。また、随筆「天保会記」(天保会は当時の学者や文人の集り)54巻を遺し、これも同文庫にあるが、多くは散逸し、現存16巻というのはさびしいが、いずれも大冊なので、まだかなりの量を保っている。

つぎの細野要齋も、同じく尾張家の世臣で、初代一雲は八条流馬術の名人の誉れが高く、以後、代々馬術師範として仕えた。しかし、要齋は、少年期から学を好み、武芸を捨てて香実の門に入りその高弟として儒・国画学を修め、一家を成すにいたった。まず、明倫堂典籍(助教授程度)に任ぜられ、一時、病を得て退職したが、次には教授にのぼり、短期間ではあるが、督学(学長)をも努めた。この間、「葎の滴」という総題のもとにおびただしい著書を遺したが、中でも「感興漫筆」およそ40巻は、幕末から明治初年にわたる40年間の日記的随筆で、かれの生活、交友関係、行動などがくわしく記され、この時代の尾張文化史料として、ひじょうに貴重である。「諸家雑談」「見聞雑割」「好古雑纂」なども「葎の滴」の一部で、それぞれ有益でユニークな資料といえる。別に「尾張名家誌」「同 二編」、これはのちに出版された。

また、要齋は好古のたしなみが深く、古い書籍・書画・器物などをひろく探し求め、その学術的な評価を行ない、この方面では先覚者の役割を果たした。そのスケッチが、ときに「感興漫筆」にも掲載されている。交友関係はなかなか広く、とくに野口梅居、小寺玉晃らと親しく、門下奥村徳義の大著「金城温古録」の編述には、大いに助力している。

前置きが長くなったが、いよいよ蔵書印に移る。まず、香実



「尾張深田氏記」

の印は、たて24mm、よこ17mm、カドのとれた長方形で「尾張深田氏記」とある彫りのふかい楷書は、一見して誰にでも読みやすくいかにも学者ぶらない大家の風格がしのばれる。なお、この印は、前述の「天保会記」に捺されている。

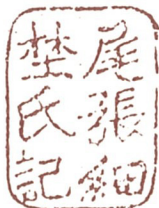
つぎに要斎の印をアンバランスながら四種挙げる。一つは香実の印とよく似ており、同じくすみのまわり長方形で、「尾張細埜氏記」とあり、師の印にならったかと思われるほどである。大きさもたて26mm、よこ20mmとほぼひとしい。これも、要斎の自著「諸家雑談」に、さらにもう一種の「要斎蔵書」は、たて37mm、よこ15mm、たて長の長方形で、この方は難解な古体の文字が使われており、「香実先生文集」に見える。

また「要斎珍藏」という、たて17mm、よこ15mmの小形印は「八郡遊覧資」。最後は「要斎蔵書」とある、たて46mm、よこ19mmの長方形で、「一軌図資講」にとなかなかバラエティに富んでいる。

(元 蓬左文庫調査研究員)



「要斎珍藏」



「尾張細埜氏記」



「要斎蔵書」
(『香実先生文集』使用)



「要斎蔵書」
(『一軌図資講』使用)

— 次回展示は —

尾崎久弥コレクション名品展

4/12(土)～6/15(日) (5/15(木)・5/16(金)は展示替のため休室)

出版物一覽

名古屋市蓬左文庫漢籍分類目録(S . 50年刊)	3,500円	名古屋叢書三編第12巻(S . 56年刊)	3,000円
名古屋市蓬左文庫国書分類目録(S . 51年刊)	4,000円	同 第 8 巻(S . 57年刊)	3,000円
名古屋市蓬左文庫古文書古絵図目録(同)	2,500円	同 第16巻(同)	3,000円
尾崎久弥コレクション目録第一〜三集 (S . 52〜55年刊)	各 1,500円	同 第19巻(同)	3,000円
名古屋叢書(正編)索引・総目録(S . 53年刊)	2,000円	同 第17巻(S . 58年刊)	3,000円
名古屋叢書続編 索引(S . 47年刊)	700円	同 第 4 巻(S . 59年刊)	3,000円
名古屋叢書続編総目録(S . 44年刊)	400円	同 第 9 巻(S . 60年刊)	3,000円
善本解題図録第一〜三集(S . 55年再版)	各 300円	同 第11巻	
日本の古典<蓬左文庫図録>(S . 52年刊)	200円	一楽寿筆叢他一 (同)	3,000円
蓬左文庫・源氏物語図録(S . 53年刊)	300円	同 第18巻(1)	
蓬左文庫所蔵古地図複製 No.1〜No.13(S . 55〜60年刊)		一横井也有全集 下(1)一 (同)	3,000円
No.12 海東郡(S . 60年刊)		同 第18巻(2)	
No.13 海西郡(同)		一横井也有全集 下(2)一 (同)	3,000円
	各 1,800円	同 第15巻	
御本印型書鎮(S . 58年製)	1,000円	一尾張方言資料集一 (近 刊)	3,000円
堀田文庫蔵書目録(S . 58年刊)	500円	蓬左文庫図録(S . 58年刊)	1,500円
		蓬左文庫絵葉書<8 枚組>(同)	300円

★以上の出版物は、本文庫事務室において頒布しています。郵送希望の方は郵送料が必要ですので、お問い合わせ下さい。(ただし、古地図複製は郵送不可)

▷▷▷ 利 用 ご 案 内 ◁◁◁

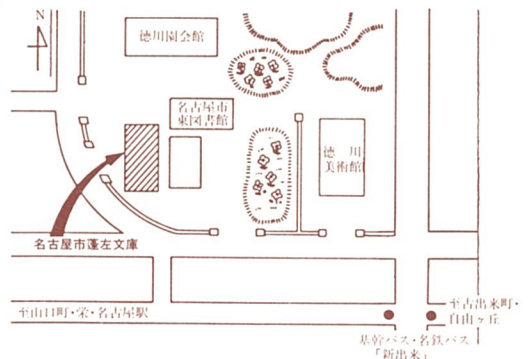
- ▷開 館 時 間 午前 9 時30分〜午後 5 時
- ▷休 館 日 毎月曜日・第 3 金曜日(館内整理日)
祝日 (日曜に重なる場合は日曜開館、月・火休館)
月曜 " 月・火休館
年末年始(12月28日〜1月 4 日)
- ▷閲 覧 館内に限り、館外貸し出しはいたしません
(閲覧料) 普通図書 無料
重要図書 有料(1部350円)
- ▷展 示 随時蔵書の一部を展示
(特別展を除き入場無料)
- ▷複写サービス 普通図書のうち、保存上影響のない
ものについて複写サービスを行います。
その他、マイクロフィルムの利用、
写真撮影の申請を受け付けます
ので、ご来庫の上、ご相談下さい。

名古屋市蓬左文庫

〒461 名古屋市東区徳川町1001番地

☎(052)935-2173

(<名古屋駅から> 市バス「基 2」 「自由ヶ丘」行
名鉄バス「本地ヶ原方面」行
<栄 か ら> 市バス「基 2」 「引山」「自由ヶ丘」行
「新出来」下車、徒歩 4 分



「蓬左」第25号 ☆昭和61年 1 月11日発行 ☆編集・発行：名古屋市蓬左文庫(東区徳川町1001番地)
☆無料 ☆不定期刊行 ☆印刷：大同印刷株式会社(東区泉 2 - 3 - 18)